

舞台は1980年8月15日の九州肥前松浦。夕暮れ、東京で不倫の末、恋に破れた「女」が死に場所を求めて故郷へ戻って来る。自殺未遂で収容される古びた旅館が舞台。旅館を営む「おばば」は、終戦の日の8月15日、不義の子を死なせた想い出に生きている。

「女」と「おばば」の間で、それぞれの思いをこめたモノローグすれすれの会話が交わされ、「女」は次第に生きる力を取り戻していく…。時代よ、逞しくあれ。

「印象的なセリフ。何度も上演されてしかるべき作品」

1990年読売新聞劇評

「いい劇だった。意気込みだけのことはあった」

1982年毎日新聞劇評

「これは生命の賛歌である」

1992年赤旗新聞投稿

「セリフに圧倒的な力 まざまざと残る印象」

1994年京都新聞劇評

「精霊流し」は、日本の男とその時代を描くことを得意とする岡部耕大が、小劇場運動が盛んだった1980年に発表した女性2人だけの作品です。すでに初演で「印象的なセリフ。何度も上演されてしかるべき作品」と読売新聞の劇評で絶賛されましたように、その透き徹った夕闇から黄昏の風景をバックに女性二人だけの紡ぎ出すような台詞の数々は演劇評論家衛紀生氏をして「演劇史に残る、とつても名作です」といわしめた作品です。

台詞が持つイメージの劇世界。本来、「演劇は言葉の芸術であったのだ」と頷かせるに十分な内容です。そう、これは朗読劇に近い。

それは、作演出の岡部耕大もいうように、火のように激しい女の情念をうちに秘めながらも、淡々と自殺未遂の若い女性に自らの戦争体験と若い過去を笑いながら語り「それでも生きるのだ」という。おばばは、この時代に生きている人たちの胸の奥の奥までも迫り、力強く生きると励まします。日本人は、今こそ人間の時代を取り戻さなければ取り返しのつかないことになるのではないのでしょうか。

演劇は人間と人間との出会いを生みます。小劇場運動が盛んだった最中に、改めて逆らうように上演されたこの人間ドラマが、「もう一度人間の時代に還れ」とでもいうように、静かに浮上しました。すでに各地で再演が重ねられ絶賛されてきました。

今、日本人は静かにはありませんが、それでもどこか激しく「人間でありたい」と切望しているのかもしれない。上演された各地での観客の反応がそれを如実に教えてくれます。ピアノが奏でる童謡のメロディーで幕が開くこの一幕物の夏芝居は、その瞬間から咳払いや物音一つない静かな闇の世界が訪れるのです。「おばば」と「女」の絶妙の会話に笑い泣き、それでもだれもが透き徹った8月15日の夕暮れの風景に身を委ね、そこに誘われるのです。

それはそこに戦後の日本人の原風景があるからでしょう。名作といわれる所以です。

萩野道子



- ・北海道出身
- ・裏千家茶道講師・生流宮城会教師・よこ笛(望月鏡花)(主な出演作品)
- ・絵島生島(大阪中座、司葉子、市川海老蔵)
- ・残菊物語(京都南座、新玉三千代、尾上菊五郎)
- ・徳川の夫人たち(東京明治座、池内淳子、宝生まあやこ)
- ・見果てぬ蒼・川島芳子の生涯(日本橋三越劇場、松あきら、林美智子)
- ・出雲阿国(京都南座、新玉三千代、横内正)
- ・風の墓(岡部企画)
- ・元寇(岡部企画)
- ・晶子の乱(岡部企画)
- ・新宿ムラン・ルージュ(岡部企画)

桜子



- ・埼玉県出身
- ・東京音楽大学ピアノ科卒業
- ・埼玉県加須市観光大使・埼玉ピアノコンクール、日本クラシック音楽コンクール全国大会、長江杯国際コンクール入選(レコーディング・楽曲提供・コンサート・舞台)
- ・1st.アルバム「Re-birth」(リリース)
- ・「0歳児からのクラシックコンサート」(横浜そごう)
- ・マキシシングル「荒川家」(リリース)
- ・ダイナースカードプレミアムコンシェルジュデスク(楽曲提供)
- ・「ハロウィンコンサート」(フリーメイソングランドロッジ)
- ・「SAKURAKOCLASSICS」(銀座ヤマハホール)
- ・現代人形劇舞台「邪馬台国のチサとオト」(楽曲提供・即興演奏)
- ・セルフストーリーオペラ「這い上がり」(楽曲提供・即興演奏)
- ・「新宿ムラン・ルージュ-赤い風車の回る小屋-」(岡部企画)

チケット取扱い

発売開始/6月20日(月)

*文化会館 ☎0956・72・5758

料金

全席自由 1,000円

主催/松浦公演実行委員会

後援/松浦市 松浦市教育委員会

岡部企画 ☎044-933-9754 <http://koudai.right-road.net> E-mail:nana5years@yahoo.co.jp



岡部企画HP